

# ITS年次レポートの遍歴

2019年6月更新

## (第4章～第6章)

表紙	第4章 産業界のITS動向	第5章 学界のITS動向	第6章 世界のITS動向
<p><b>2007年版</b></p> 	<p>端末機器（カーナビゲーションやETC 車載器、VICS 端末等）のITS 産業規模や、端末機器以外の自動車産業、電子通信産業、鉄道、船舶、航空分野、についても可能な限り統計データから見えてくるITS産業について掲載した。端末機器の普及に欠かせないインフラ整備の統計データも掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界の取り組み</li> <li>3.産業分野における今後のITSの拡大</li> </ol>	<p>大学におけるITS 先端技術を分野別に分類し、この視点から具体的内容を考察し掲載した。さらに、大学のITS研究の具体的な事例や大学のITS 研究がITS に果たす役割について掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>日米欧3 極のITS 動向の概観、欧州、米国の代表的ITS プロジェクト、アジア太平洋地域の各国/ 地域のITS の状況等、最新のITS 国際動向をまとめて掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧米のITS動向</li> <li>3.アジアのITS動向</li> </ol>
<p><b>2008年版</b></p> 	<p>2007年版の掲載内容に加え、インフラの公的整備予算を掲載した。また、陸海一貫物流に関連して海上交通のインテリジェント化についても掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界の取り組み</li> <li>3.産業分野における今後のITSの拡大</li> </ol>	<p>2007年版と同様の章立てで内容を充実させた。がITS に果たす役割について掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>2007年版の掲載内容に加え、今後のITS動向や中国、韓国等アジア太平洋地域各国のITS の取り組みを掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州・米国・中国におけるITSの取り組み</li> </ol>
<p><b>2009年版</b></p> 	<p>2008年版の掲載内容に、プローブ情報活用サービスの状況について追加掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界の取り組み</li> <li>3.産業分野におけるプローブ情報活用の状況</li> <li>4.産業分野における今後のITSの拡大</li> </ol>	<p>2008年版の掲載内容に加え、「ITS シンポジウム」や「ITS 世界会議」における発表論文の分析や投稿論文の傾向分析、等について追加掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>2008年版の掲載内容に加え、アジア太平洋地域各国のITSの取り組みを別節にし、写真、図表を添え掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州・米国・中国におけるITSの取り組み</li> <li>3.アジア太平洋地域の取り組み</li> </ol>
<p><b>2010年版</b></p> 	<p>2009年版の掲載内容に加え、情報ネットワーク関連（携帯電話の生産台数や販売金額の推移、カーシェアリング車両台数や会員数の推移）について掲載追加した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界の取り組み</li> <li>3.産業分野におけるプローブ情報活用の状況</li> <li>4.産業分野における今後のITSの拡大</li> </ol>	<p>2009年版の掲載内容に加え、ITSに関連する先端技術・システム調査の概要、ITSジャーナルの国際展開、「日本ITS推フォラム」での先端技術講演等について掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.ITSジャーナルの国際展開</li> <li>5.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>2009年版の内容と同様に掲載した。欧州、米国の取り組みを別節にした。中国も別節にし、「第11次五か年計画(2006年～2010年)」期間中の政府のITSプロジェクトの内容を掲載した。また、初めてロシアの取り組みを掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州の取り組み</li> <li>3.米国の取り組み</li> <li>4.アジア太平洋地域の取り組み</li> </ol>
<p><b>2011年版</b></p> 	<p>2010年版の掲載内容に、世界的環境変化の意味付けを試みると共に、主要な産業分野の昨今の動向をまとめて追加掲載した。プローブ情報活用サービスの状況については、特集に掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界の取り組み</li> <li>3.産業分野における今後のITSの拡大</li> </ol>	<p>2010年版と同様の章立てで内容を充実させた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.ITSジャーナルの国際展開</li> <li>5.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>2010年版と同様の章立てで内容を充実させた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州の取り組み</li> <li>3.米国の取り組み</li> <li>4.中国の取り組み</li> <li>5.アジア太平洋地域の取り組み</li> <li>6.その他の国々</li> </ol>
<p><b>2012年版</b></p> 	<p>社会・技術動向の変化を捉えて、広がりを見せるITS を、大都市問題への包括的対応、次世代自動車やスマートグリッド、スマートフォンの応用を掲載した。ITS スポットやDSSS等、路車協調システムについても掲載した。従来通り、統計・データから見えてくる産業界の動向も掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界におけるITSの広がり</li> <li>3.産業界の取り組み</li> <li>4.産業分野におけるプローブ情報活用の状況</li> </ol>	<p>2011年の掲載内容に、大学のITS 研究の事例や要素技術の研究についてまとめて追加掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.ITSジャーナルの国際展開</li> <li>5.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>中国を、アジア太平洋地域の取り組みに移し掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州の取り組み</li> <li>3.米国の取り組み</li> <li>4.アジア太平洋地域の取り組み</li> <li>5.その他の国々</li> </ol>
<p><b>2013年版</b></p> 	<p>従来の掲載内容に加え、常任理事企業と、「コミュニティプラザ」や「日本ITS推進フォーラム」で講演いただいた会員企業から、各企業の取り組み内容を執筆頂き掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.産業界におけるITSのひろがり</li> <li>3.産業界の取り組み</li> <li>4.産業分野におけるプローブ情報に関連する動き</li> </ol>	<p>2012年版と同様の章立てで内容を充実させた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.ITS研究開発技術分野</li> <li>3.大学でのITS研究動向</li> <li>4.ITSジャーナルの国際展開</li> <li>5.大学とのITS活動分野における連携・課題について</li> </ol>	<p>従来の掲載内容に加え、ミャンマーを新たに掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.概説</li> <li>2.欧州の取り組み</li> <li>3.米国の取り組み</li> <li>4.アジア太平洋地域の取り組み</li> <li>5.その他の国々</li> </ol>

## (第4章～第6章)

表紙	第4章 産業界のITS動向	第5章 学界のITS動向	第6章 世界のITS動向
<p><b>2014年版</b></p> 	<p>会員企業19社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した。加えて、ITS Japan コミュニティプラザで講演頂いた2つの公的研究機関に、将来の技術・産業を支える技術基盤の準備状況を掲載</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業・公的研究機関からの寄稿</li> </ol>	<p>IJIRへと投稿された論文から国(地域)、研究者の関心の対象、その推移などについて整理し掲載した</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ITS世界会議一投稿論文の分析</li> <li>ITS世界会議一論文動向の分析</li> <li>論文数以外の参加に係る数値</li> <li>IJIR投稿論文の分析</li> </ol>	<p>米国のTRB年次総会への参加、欧州のHorizon 2020の調査を行ったので、その結果について掲載した。加えて、2014年9月に開催される「第21回ITS世界会議2014テドロイト」の開催準備状況について掲載した</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>自動運転に関する国際動向</li> <li>第21回ITS世界会議テドロイト2014準備状況</li> </ol>
<p><b>2015年版</b></p> 	<p>第3章 産業界のITSの取組み</p> <p>会員企業18社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業からの寄稿</li> </ol>	<p>第4章 学界のITSの取組み</p> <p>2014年度からのコンセプトに従い、2014年度に活動した、ITSシンポジウム、ITS Journalの取組みについて、詳しく掲載した</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第12回ITSシンポジウム2014</li> <li>ITSジャーナルの国際展開</li> </ol>	<p>第5章 ITS Japanの国際活動</p> <p>ITS Japanの国際活動について、基本方針と具体的な活動実績を紹介する章として、内容を見なおした。ITS世界会議、アジア太平洋地域ITSフォーラム、及び国際交流活動を柱に、具体的な活動を掲載した。これまでの海外動向については電子版にまとめた</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際活動方針</li> <li>第21回ITS世界会議テドロイト2014開催概要</li> <li>第13回アジア太平洋地域ITSフォーラム オークランド2014開催概要</li> <li>国際交流活動</li> </ol>
<p><b>2016年版</b></p> 	<p>第3章 産業界のITSの取組み</p> <p>会員企業17社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業からの寄稿</li> </ol>	<p>第4章 学界のITSの取組み</p> <p>2015年度からのコンセプトに従い、2015年度に活動した、ITSシンポジウム、ITS Journalの取組みについて、詳しく掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第13回ITSシンポジウム2015</li> <li>ITSジャーナルの国際展開</li> </ol>	<p>第5章 ITS Japanの海外活動の広がり</p> <p>ITS Japanの国際活動について、基本方針と具体的な活動実績を紹介する章として、内容を見なおした。章題を「ITS Japanの海外活動の広がり」とし、従来のITS世界会議、アジア太平洋地域フォーラム、国際交流の報告に合わせ、自動運転と衛星測位にかんする動向も紹介した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際活動方針</li> <li>第22回ITS世界会議ポルドー2015開催概要報告</li> <li>第14回アジア太平洋地域ITSフォーラム南京2015概要</li> <li>国際交流活動</li> <li>自動運転の世界動向</li> <li>欧州の衛星測位の動向</li> </ol>
<p><b>2017年版</b></p> 	<p>第3章 産業界のITSの取組み</p> <p>会員企業19社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業からの寄稿</li> </ol>	<p>第4章 学界のITSの取組み</p> <p>2015年度からのコンセプトに従い、2016年度に活動した、ITSシンポジウム、ITS Journalの取組みについて詳しく掲載、新たな企画としてITS Japan理事である3研究室の紹介を記載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第14回ITSシンポジウム2016</li> <li>ITSジャーナルの国際展開</li> <li>学界の研究内容の取組み紹介</li> </ol>	<p>第5章 ITS Japanの海外活動の広がり</p> <p>2016年度からのコンセプトに従い、ITS世界会議、アジア太平洋地域フォーラム、国際交流の報告に合わせ、日本のITSの海外展開支援への幅を広げアフリカや西アジアの情報報告をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際活動方針</li> <li>第23回ITS世界会議メルボルン2016開催概要報告</li> <li>国際交流活動</li> </ol>
<p><b>2018年版</b></p> 	<p>第3章 産業界のITSの取組み</p> <p>会員企業13社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業からの寄稿</li> </ol>	<p>第4章 自動運転の動向</p> <p>これまでひとくくりで扱われていた自動運転も「乗用車、物流トラック、都市共有モビリティ」という3つのドメインに分割して語られるようになった。これらを踏まえ、国内動向を解説し、欧州と米国同については、3視点から解説・紹介している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内動向</li> <li>欧州動向</li> <li>米国動向</li> <li>日本の国際連携活動</li> <li>自動車の高度化に伴う諸課題検討会の活動報告</li> <li>自動運転のまとめ</li> </ol>	<p>第5章 学界のITSの取組み</p> <p>2015年度からのコンセプトに従い、2017年度に活動した、ITSシンポジウム、ITS Journalの取組みについて詳しく掲載、ITS Japan賛助会員である5研究室の紹介を記載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第15回ITSシンポジウム2017</li> <li>ITSジャーナルの国際展開</li> <li>学界の研究内容の取組み紹介</li> </ol>
<p><b>2019年版</b></p> 	<p>第3章 産業界のITSの取組み</p> <p>会員企業9社から、新たな領域に取組んでいる内容等具体的な取組み・活動の寄稿を掲載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>会員企業からの寄稿</li> </ol>	<p>第4章 自動運転の動向</p> <p>自動運転がその用途に基づき、大きくオーナーカーと物流・移動サービスの2分類に分けて議論されるようになった。これらの最新の動向を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オーナーカー(Privately Owned Vehicle)の自動運転車の動向</li> <li>物流・移動サービス用自動運転車の動向</li> <li>要業技術の動向</li> <li>制度と法規化の動向</li> <li>まとめ</li> </ol>	<p>第5章 学界のITSの取組み</p> <p>2015年度からのコンセプトに従い、2018年度に活動した、ITSシンポジウム、東京大学モビリティイノベーション連携研究機構、ITS Journalの取組みについて詳しく掲載、ITS Japan賛助会員である4研究室の紹介を記載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第16回ITSシンポジウム2018</li> <li>ITS研究領域における大学間連携の進展と東京大学モビリティイノベーション連携研究機構の設置</li> <li>ITSジャーナルの国際展開</li> <li>学界の研究内容の取組み紹介</li> <li>第16回ITSシンポジウム2018プログラム</li> </ol>